

団体の名称	きりゅう市民活動推進ネットワーク
日 時	令和元年9月17日(火) 午前10時53分~午後0時13分
会 場	桐生市民活動推進センターゆい
テ ー マ	① 創業・起業の際の桐生市との連携について ② Uターン・Iターン移住者から見る桐生市について

開会
主催者あいさつ
<p>皆さん、こんにちは。本日は「笑顔のふれあいトーク」ということで、荒木新市長を囲んでみなさんと意見を交わしたいと思っています。私は30年くらいまちづくりをやっているのですが、これだけ若いメンバーが実際に動いて自分で何かをやっているということは本当に希望が持てる。よく「まちづくりは、よそ者・若者・馬鹿者」と言いますが、今日の皆さんは「よそ者」で。今日はご自身でやっていること、それから、どう行政と取り組むかということも具体的にお話いただき、今後スムーズに行政と連携できるような共同事業になっていけばいいなと思っています。それではよろしく申し上げます。</p>
市長あいさつ
<p>皆さん、こんにちは。今日はきりゅう市民活動推進ネットワークの皆さんと一緒に「笑顔のふれあいトーク」が開催できますことを本当に嬉しく思っています。もうすでに皆さんは桐生の中で一生懸命活動している人ばかりだと思います。そんな人たちが起業・創業するにあたっての桐生市との連携、またIターンUターンで移住してきた人たちから見る今の桐生とこれからの桐生ということで、そういった感想やお話を聞かせていただくということは、自分自身にとっては本当にありがたい話です。是非、皆さんの意見を参考にしながら、一緒になって、これからすばらしい桐生をつくっていただければありがたいかなと思っています。選挙の時も、若者会議を作ろうということをご公約の中に入れていただいています。こういった中で忌憚のない意見交換をさせていただくことがすばらしいことだと思いますので、是非今日は実のある会議になりますように、また思っていることをどんどん言っていただきますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
自己紹介
意見交換
<p>(司会)</p> <p>荒木市長、ありがとうございます。それでは早速、本日はお時間を11時から1時間程度見込んでおまして、いろいろとざっくばらんに意見交換できたらなと思っています。</p> <p>議題がございまして、ホワイトボードをご覧くださいますと、だいたいの流れとなっております。</p> <p>お集まりいただいた皆さんは、地元の人、外へ出てからUターンで桐生に戻って来られた人、桐生を選んで移住してくださった人と、いろいろな人にお越しいただいています。それぞれの皆さんが、桐生でのイベントや創業・起業を考えていらっしゃる人、すでに起業されている人もいらっしゃいますので、皆さんからいろいろとアイデアをいただけたらと思っています。</p>

それでは議題へ入っていきたいと思います。よろしく申し上げます。

(意見)

私から提案させていただきたいことがございまして資料を作らせていただきました。5枚あるのですが1枚目のみで進めさせていただきたいと思います。全国的にも初めてだろうということで完全特化型のマタニティカフェという形で桐生市琴平町にて5年前からオープンさせていただいております。きっかけは北海道出身の妻と桐生市出身の私が結婚したことから始めて、知らない土地で家族もいない中、妊娠・出産・子育てをしている妻を見て、もう少しいろんなコミュニティがあったら面白いだろうなということで始めました。それをもとに今回の「ゆりかごの街きりゅう」という仮タイトルなのですが、民間と桐生市の連携事業としての提案でございます。

「1. 課題」ということですが、現在、赤ちゃん連れやお子様連れでどこに外出しようか？となった時に、周りの目が気になったり、情報が少ない事から外出を控えたり、大型ショッピングモールへ出かける事の方がダントツに多い。そんな中、SNSが主流となっておりますので、顔と顔、言葉と言葉で交流を持つことが、子どもたちの大きな未来に小さな一つのきっかけを与え続けることが、何よりも大切だろうということで5年間活動してまいりました。

「2. 事業内容」なのですが、毎週1回、賛同加盟店にてママさんや妊婦・子供向けイベントを無料開催しています。これ実はこちらのカフェがずっと毎月4・5回イベントをやっているのですが、県外・市外から来るお客様が実は6割・7割で桐生の人の方が少ないのですね。桐生はたぶんこの地域でもこういったイベントで、子ども連れで参加できるものが意外と少ない。大きいイベントですと日程が合わないとそこでもう出られませんので、毎週やるということが何より大切かなということですね。というのもイメージとしては赤ちゃんの駅みたいな形で、うちのカフェがやってきたようなことを桐生中で出来るお店を増やしていくことで「桐生全体で子どもたちを見守りながら育てられる、それで外出できる環境」というまちづくりを行っていきたいということを考えております。それをできる環境、コミュニティ、地域性こそが桐生市のブランド力ということで発信していくことができるのではないかとこの事業内容です。

できれば子どもたちが大きくなった時に「桐生にこういう場所があったよね」というところを一つでも増やしていくことが大切なのかなと思っています。そういうことをできる事業として今回の「ゆりかごの街きりゅう」を進めていけるよう桐生市と連携を取りながらやっていければなと思っています。

「3. 狙いと効果」なのですが、こちらは一般的に言うハード面ソフト面で言えば完全にソフト面ではあるのですが、私が一番、このお店をやっていて本当に胸を打たれることがあって、妊娠中に店に来てくれた赤の他人が「生まれたよ」って抱っこをさせに、私と妻に会わせに来てくれるのですね。これ本当にすごいことだなと思うのですよね。家族でもなく友人でもない赤の他人の我々に生まれた赤ちゃんを抱かせに来てくれるというのは、今本当にすごく温かみのあることだなと思っています。これを事業として桐生市と連携しながら桐生中にこういったコミュニティを増やしていきたい。こういう「人と人」「まちとまち」の「交流」という、人として最も大切な部分で繋がっていくことで、今後育っていく子どもたちに良いまちという

ことを財産として与えることができるのではないかと考えております。

荒木市長の公約も拝見させていただいて、市民の活躍を応援するということでは、ママさんたち一人一人が活躍することによって発信する力というのも増えていく。参加したママさんたち、意識が変わったママさんたち一人一人のアピール力が増えていくことで、まち全体に「桐生市ってこういうところなんだよ」という情報を発信する人が増えていくというイメージがすごく理想的だなと思っております。こういった形で事業提案を打ち出させていただいております。2枚目以降はお時間があるときに是非お目を通していただければと思います。ありがとうございました。

(意見)

簡単な自己紹介からさせていただきたいと思います。私はもともと都内の八王子という場所出身で八王子も織物のまちなのですが、小さい頃からどんどん産地としての産業が衰退していつてしまっているのを肌で感じて育ってきたので、将来的にそういう産業を何か活性化させる活動ができたらなとざっくり考えて過ごしていました。

そのあとに、洋服作りが好きだったので洋服作りを学ぶために都内の専門学校に進んでそこからアパレルメーカーに就職して、アパレルメーカーの中から全国の産地にアプローチをかけて産業を活性化させたいと思って2年間ほど働いておりました。ただ距離的な問題、全国の産地との関係性が遠いなというのを感じました。私自身も服作りについては知識があったのですが繊維については全く知識がなかったのでその状態でメーカーの中で働いていく不安もあったので、それならば産地に自分が行ってみて実際に肌で感じたことをもとに活動していこうという考えになって、三年前に転職し今の桐生の会社にまいりました。

3年ほど桐生で過ごしてすごく感じていることは、今ここにいらっしゃる素敵な考えを持った大人というか先輩がたくさんいらっしゃって、せっかくこういう人たちがいるのにその両方を繋げる情報のハブみたいな場所が少ないなと感じたのと、こんな素敵な場所や素敵な人がいるのに、なぜか上手くビジネスがまちの中で回っていないなというのは何となく感じています。私自身が何かできることはないのかなと考えたときに、新しく事業を起こした人やこれから考えている人のために、そういった実体験やエピソードを動画やインタビューの形で市のホームページからどんどん発信していってもらえたら、市民の私たちも「あ、こういう見本があるんだ」という目標というかやり方を教われる場所にもなると思うので、是非そういう情報をたくさん発信する場所を、市から積極的に作っていただければ嬉しいなと思います。

あとは、産業面のことから申し上げますと、繊維産業の中にいる人にとっては、桐生はすごく有名な場所なのですが、私の地元の友達や上司に聞くと桐生自体をそこまでよく知らないというか、「繊維イコール桐生」というイメージを持っていない人がすごく多かったので、そういう繊維に全く興味がない人に対しての訴えかけというか活動を何かしていけたらと思って、私もその部分については自分でできることを考えている途中です。

全国どこの地域も人口を増やすために、例えば補助金を出すなどの保障面ほどの地域でもあると思うのですが、その部分だけでは「じゃあ桐生に引っ越そう」という気にはならないと思っていて、そこにプラス例えば市が空き家をリノベーションして、例えば桐生市内で何か事業を始める人に2年間無償で提供するなど、客観的に見たらすごくそんなことありえないと思

われると思うのですが、そのくらい過剰な補償というかがないと今の時代だと、わざわざ土地を変えて引っ越すという選択肢の中に桐生は入ってこないのかなと思います。

繊維業を繊維に興味がない人に広める活動の一環として、上毛電気鉄道さんと私の会社の人に協力していただいて電車の中をこう展示装飾の様な形で、桐生でどういう織物を作っているのか知ってもらうために、実際に見て感じてもらうために、そういったイベントを今年の桜の咲くシーズンにやらせていただきました。やはりそういうことがあると上毛電気鉄道さんにもたくさん好評の声があったそうで、何か活動を起こすことでリアクションを返してくれる人もいるのだなと思って、これからも進めていきたいと思っています。よろしくお願いします。

(意見)

今回、10月1日から黒保根で地域おこし協力隊に着任することになった経緯や自己紹介を簡単にできればなと思います。

私は九州の熊本県で生まれて、先月まで東京で医療関係の営業マンをしてきました。医療関係をちょっと具体的に言うと血液検査の会社なのですが、会社は東京八王子市に東京ドーム3個分の自社ラボを持っている業界では1位の会社ではあったのですが、業界内の競争が激しい業界でして、その中で私が担当していたのが渋谷区、目黒区、大田区といった営業のスピード感や競争が激しい地域でやってきました。そこで営業マンとして働いてきましたのでいわゆるB to Bの営業力には自信があるので、皆様もすばらしい商品をいろいろ展開されていると思いますので、もし機会があればその営業部隊として使っていただけたら嬉しいなと思います。

私が地域おこし協力隊として黒保根を選んだ理由なのですが、桐生市黒保根町以外にもいろいろ選択肢は正直あったのですが、その中で一番の選んだ理由としましては、もう一言で行政の職員との相性というところがありまして、黒保根の支所の職員がとても親切にしてくださって、他の市町村、全国いろいろあるところにも面接を受けに行ったりはしたのですが、その中でも一番手厚くお世話をしてくださっていて「これならやっていけるんじゃないか」というふうに思って決めました。

また、東京で4年間働いてやはり首都圏が人と物と金が一番早く、そして多く集まる場所だなというのもありまして、今日も朝から、東京から来たのですが東京から桐生市というのもアクセスもとても良いかなと思っているので、目線を東京に向けて人だったり物だたりを集めて、また、桐生市黒保根を盛り上げていけたらなというふうに思っています。

その中でこれから10月1日から生活をしていくのですが、一番大事にしたいなと思っていることが、やっぱり自分自身楽しみながらこの生活をしたいなというふうに思っていて、移住を考えている人たち、僕の周りの友達とかにも東京にたくさんいるのですが、やっぱりこう何というリアルな情報が足りないというか、もう一步こう想像ができない、イメージができないという人が結構多くいるのですよ。その人たちのためにも僕がモデルとなって移住の良いところだけじゃなく悪い面とかも赤裸々に伝えることによって、全国的に移住する人が増えて盛り上がってくるという流れができるのではないかと考えているので、一番は楽しむことを念頭に置いて、頑張っていきたいなと思っています。これからよろしくお願いします。

(意見)

私も桐生出身で高校の時に大阪に出て8年ほどいたのですが、子育てするにあたり実家のそばが便利かと思い桐生に戻ってきました。先ほどから移住の話がいろいろと出ていますが、「桐生に移住する」と踏み切るのに大事な要素はいろいろとあると思います。例えば、仕事が桐生にある、交通の便がいい、とか。子育て世代の私にしてみればすごく大事なものは教育なのです。桐生が他と比べてすごく劣っているなど思うのはやっぱり教育なのですよね。特色のある学校というのはなくて、教育関係で何か優れているなどという魅力がないのですよね。桐生でも結婚しても、どこに住もうと考えたときに太田とか伊勢崎とか足利に行ってしまうのですよね。私の子どもは今高校生なのですが、高校を選ぶときに桐生の高校はあまり選択肢に入らなくて・・・実際は今、桐生の高校に行っているのですが。太田には中高一貫校の公立があって、伊勢崎にも中高一貫校があって。足利からだともっといろいろな選択肢があったりとか、太田からだとも埼玉も行けたりとか。すごく充実しているのですよね。太田だとアカデミーなんかあったりして。そこに行くために移住してくる人がいるなんていう話も聞きます。

ビジネスとかお仕事とか、お子様いらっしゃらないところはそういうところがすごく大事になるのかもしれないですけど、これからのまちづくりで一番大事なのは子どもの教育だと私は思っています。小学校1年生の子どももいるのですが、子どもに「学校はどう？毎日楽しい？」と聞くのですが、今夏休み明けて9月になったのですが、「つまんない」。つまんないのですって学校が。1年生なのにつまらないのです。もうちょっとびっくりしちゃって。わからなくもないなど思うのは、授業参観で道德の授業を見せてもらいましたが、先生が前に立って子どもが椅子に座って先生の方を向いて、先生はとりあえず1人1人全員に発言させることに必死で彼らが何を考えているかというのはあまり意識されていない。対話というのは全くない。とりあえず全員が手を挙げて「君、今日指された？」なんて聞かれて「指されていないんじゃないか言って」という授業なのです。しまいには4年生で寝ている子もいたのもうびっくりしちゃって。小学校で寝ちゃうような授業はちょっと・・・この先どうなっちゃうのだろうなど思いますよね。夏休みの宿題もどこの学校も、わたしが子どもの頃と大して変わらない。とりあえずポスターを1人1枚かけとか、読書感想文を必ず1枚提出しなさいとか。子どもが何をやりたいとか、どこに興味があるのかというのはほとんど無視されていて、その子に合った教育というのは全然されていないのかな。お友達の話なのですが、小学校4年生で授業中に先生の話をよく聞いていられなくてついつい図書館の本とかを読んでしまうのですよね。そうすると先生が「本をしまいなさい」と言って授業に参加させようとするのです。しまいには本を隠しちゃって。でもその子は本を読みたくて授業中に立ち上がって本を探しに行ってしまうりするのですよ。お母さんが呼び出されて「授業に合わないようだから特別教育はどうかな」というようなことを進められた。何かこのままでいいのかな。そういう子も含めて全部一緒に見られるような学校を作れないのかなとか考えますね。ちょっとまとまらないのですが、教育を軸にしたまちづくりをもうちょっと桐生でがんばってもらえないかなというのを日々感じています。

桐生に図書館があるのは良いのですが、あまり魅力はないですよね。人が集まっているようには見えないし。本来ならああいう図書館が桐生の中心になってお年寄りから子どもまで集まってワイワイできるようなコミュニティスペースみたいになるのが理想かと思うのですけ

ど、図書館に入れば声は一切出しちゃいけないし、小さい子どもが走れば白い目で見られる。もうちょっと良くなれないかなと思うことがよくあります。

こうなってほしいなというのはいろいろありますが、私がいきなり学校を作るとかそういうこともできないし、前衛的な学校を設立したいので資金を集めます、ということもできないのですが、例えばそういうことを地元のイベントでいろいろできたらいいなということを思っています。今月22日は東京から講師をお呼びして考える力を子どもたちに身につけさせようみたいな講演会を大人向けに行います。これは日々思うのですが、大人の教育に対する意識が桐生の人はずごく低い感じがして、今もそうかはわかりませんが、例えば勉強している子よりもスポーツできる子の方が、何ていうかえらいとは言わないけど、ちょっともてはやされるというような風潮が昔からあると思うのですよね。子ども向けの教育関係のイベントをやってもあまり人が集まらないのです、桐生だと。そういうのも意識が低いからかなと思ったりもするので。スポーツ関係の「かけっこをやろう」というようなイベントだともものすごく集まってすぐいっぱいになるのですが。「お勉強」がついちゃうと一歩引く。小学校の頃にあったかもしれないですが、勉強ができると「あいつ真面目だよな」という感じで勉強ができることを馬鹿にするじゃないですけど蔑むような足を引っ張るような、できなくておバカでいることの方が良い、悪くいる方がカッコイイみたいなことがずうっと大人になってもある地域のような気がしています。子どもたちの人間性を評価するような情操教育をもっと桐生で広く進めていただけたらと思います。

桐生がどんどん人口が減っているのに、近隣の太田とか伊勢崎は伸びています？あ、下がっている？すみません。話を聞いていると結構そっちに行きたいという人が多いのですよね。保育園は桐生だとすごくたくさんあってみんな入りたければ入れるのに、競争率の高い他の市に行ってしまう。桐生の魅力を考えるとき大事なものは教育かなと私は思っています。

今やりたいと思っていることが1つあるのですが、桐生は昔、映画館があったのですがなくなってしまって、でも周りの市にはあるのですよね、足利にもあって太田にもあって伊勢崎にもあって前橋にもあって。桐生は1つもなくなってしまって。野外映画とかできたらいいなと思っています。桐生のどこかで貸していただけたらいいところがあればそういうことをやりたいなと思っています。桐生の映画祭とかやっていますよね。でも映画が桐生で撮った映画とかそういうことでエンターテインメント性に欠けていて。私としてはもっと大人が全力で作ったハリウッドの映画、E TとかBack to the Futureとかドキドキワクワクするような映画を外で子どもたちみんなに見せて親も一緒に楽しめて。そういう楽しい環境ができる場所があるといいなと思っています。そういうことを自分でやりたいなと思っても、隣の人に迷惑だとか音がうるさいとかいろいろ制限があると難しいかなと思いますが、そういうことができたらいいなと思っています。

(意見)

僕も高校まで桐生にいて大学で東京に出て、京都に行ってから桐生に、という感じなのですが、いろいろ経由してくると、というところもあるかもしれないけれど、そんなに桐生がさびれているとか衰退しているとかを思ったことはない。特に最近はいろいろ活動しているし、活動している人と会って話をすることが多いのでネガティブに感じることはないです。いろい

ろ活動するにあたってどうにか桐生を盛り上げようとか衰退しているのをどうにかしようとかそういう風に考えてスタートすることが意外と多いような感じがしないでもないのですが、そこがちょっと違うのかなと最近は思っています。すごいコンテンツ、と言っていいのかな、物自体はもう恐ろしくいっぱい素敵なものがあるので、それをどう活用していくかを考えればいいじゃないかなと。何もネガティブになる必要はないと思います。ただ皆さんが言っていたように、情報という部分になると思うのですが、桐生の人が桐生のことを知らない。こんなに素晴らしい本屋があるのに。「あ、こんな本屋があったんだ！いつからやってます？」と言われ「もう何年もやってるよ。」と思って。なかなか知らないという。例えば買場紗綾市をやっているでも桐生の人知らないとか。知って来てみてつまらなかったら別にそれはそれでいいと思うのだけど、知ることが重要かなと。お祭りも八木節まつりがメインになってしまっているけど、本当は祇園祭りの方がメインなのだけれど、そういうこともあまり知られていない。しょうがないと言えばしょうがないのだけれど。京都にいても京都の祇園祭りも街中の人のお祭りだからちょっと離れた所の人あまり興味がなかったりということはあるのでしょうかないのだけれど、ある程度は知っていてほしいかなと思ったりとか。桐生の人が桐生のお店に行ってそれを発信すれば、それは本当に一番のPRになると思うので。何かこれだけこう桐生の情報というのが知られていないというのは、もう逆にこれはすごいのではないかなと私的には思っていて。僕の本屋をガイドブックでPRしようとか桐生市にPRしてもらいたいと思っていたのだけれど「何かもういいんじゃないかな」という気になるくらい桐生の情報を桐生の人あまり知らないことが多い。意外と移住とか観光に人を呼ぼうとかそういう話になりがちなのだけれど、移住とか観光とか外から来る人に対してのPRというのではなくて桐生の人に向かって桐生の人もう少し何かPRできる方法があればいいのではないかなと最近思ったり思わなかったり。情報発信はインターネットに行きがちなのだけれど、たぶん、インターネットではないと思うのですよね。意外とインターネットでないところでの情報を広げる方法を何か見つけた方がいいと思います。

(意見)

私は自分の仕事もしながらお声がけいただいた時に地域活動みたいなのに参加させていただいているので、進んで自分からというよりは「あ、それ面白そうだな」「そうなるといいな」と思うことにちょこちょこお手伝いをしているような感じになっています。それというのもフリーランスという1人で仕事をするというところで時間があっても足りない、やりたいことはいっぱいあるのだけれど全然パワーが足りない、もっとたくさん公的活動に参加したいのだけれど目の前の仕事をこなすのでいっぱいという日々を過ごしています。

その中で私はウェディングという限られたジャンルでのお仕事になってしまっているのですが、あまりリサーチをせずに「独立するなら地元で」という勢いでスタートしたところがありまして、いざスタートしてみると会場がない。気合だけはあったのですができる場所がない。もちろん屋外はあるのですが、70人、80人、100人という人をお招きして、ウェディングとかパーティもそうだと思うのですが、雨天で楽しいイベントもあれば、雨天だと全くイメージが変わってしまうというのは結婚式に限らずイベントではあると思うのですが、そういういったところができる場所というのが、最初はいろいろ個人で動いてみたのですが、場所

はあるのだけれど借りられないとか、制約がすごくあるとか。最初に行ったのが有隣館さんだったりするのですが、個人使用みたいなものにはお貸しできないということで、何度もトライしてもいまだにダメだったりするのですが、結局今、場所がない問題が解決できていなくて、でも結婚式に関してはほしいやりたいシーズンがあるので時間の制限があるので、あと1ヶ月以内にはどこでやるか決めていかなくてはいけないというところなので、結果市外でやっていることがすごく多いのですよね。市内でもやっているのですが、桐生の人を全員、市外の会場へ連れて行っていることもあります。本末転倒になっているのですが、でも私のところにきてくださるお客様は、基本桐生でやりたいと思ってきてくださっているのです、それをちょっとご案内できてないところが本当に毎年の課題で、進んだり進まなかったりなんですね。そういったときに、例えば市役所で「どこに相談したらいいのだろう」というのがいまだにわかっていません。個人的にお会いした人にお話を聞いていただいたりするのは、商工会議所の人とか行政の人って皆さんすごく親切でお話も聞いてくださる。ただ、一緒に新しいことをやっちゃえ、やってみようよ、というところまではちょっと行けてないのかなと。むしろリーダーになってくれたらまともななかったものがまとまったりだとか、私たちでは届かなかったところに届いたりとかするのではないかなと思っていて。なので、そういうどンドン誰が責任とるとかこうあまり重責がないような中で活動を起こせるような部署があったら嬉しいなと思います。ジャンルも問わずいろいろな問題を何でも解決するというのは難しいと思うのですが、これは桐生のためになるだとか、それはその人の判断でよいと思うのですが、その人自身も、こうちょっとあの人に根回しをしてこうこうこうしていかないとここには辿り着けないという気持ちがなく、進んでいっていただけるような環境が作れたらすごく面白いことがいろいろなジャンルで起こるのではないかなと思っています。

(意見)

私は健康オタクの変人だと周りから思われているのですが、何でそれに興味を持ったかという私自身が不妊症だったので、自分が不妊と知ってどうにかしたいといろいろな情報を集めていく中で、食べ物が原因だったんだとか、日用品が原因だったんだということに気がついて、これを何でもっと早く私は知らなかったのだろうというところに行きついたので、なので、それをもっとたくさんの人に知ってほしいと思って今講師活動をしているのですが、聞いてくださった人は皆さん「もっと早く知りたかった」と口を揃えて言ってくれるのですが、私個人の力では届ける力にやはり限界がありまして、でもどうにかこうにかこういう話をいろいろな人に届けたいと思ったときに、講師の先生を招致してたくさんの人に届けようというところに行きつきました。最初は受講料をいただいてそれを講師の先生に還元するという形で動き始めたのですが、「こんなにいい話をこんな小さいところでやるのはもったいないから、桐生市に頼んで無料で開催してたくさんの人に届けた方がいいよ」というふうに声をかけてくださった人がいて、その人にすごくお世話になって無料開催ができることになりました。第1部で日用品に関するお話と第2部で暮らしに関するお話と2部制でやっていただいたのですが、第1部で47名、第2部で43名のご参加があり、計100名近くの方が来てくださったのですが、やはりメインはSNSで知って来た人がほとんどで、約100名の中で桐生市の人半数は半数でした。ほとんどが市外で県外から来た、東京とか茨城からその先生のお話を聞

きにわざわざ来てくださった人もいたくらいだったのですが、やはりちょっと桐生の人にはうまく宣伝をできず、届けることができなかつたというのが反省点の1つだったのと、桐生市の人たちとやりとりをする中で、やはり新しいものを始めることに対する風当たりの強さというのをすごく感じました。私も初めてのことだったので不備があったりとかということが確かにあったのですが、そこに対する突っつき方といいますか、そういうものが結構「何だよ」と思うこともありまして、そこで心を押してくれるのが行政の仕事なのではないかなと感じました。すごく親身になって話を聞いてくださる人も確かにいらっしゃって、その人たちのおかげで来てくださった人もいましたし、参加してくださった人たちも皆さんアンケートにすごく温かい言葉を書いてくださって「こういう話はもっと聞きたい」とか「桐生で開催してくれてありがとうございます」とかそういう声もたくさんあったので、こういうお話を必要としている人はたくさんいるのだなというのは感じたので、これからも継続してやっていきたいなとは思っています。

(意見)

僕は繊維産地だからという理由で桐生市を選んだのですが、何で桐生にしたかということをお話します。富士吉田市とすごく迷っていたのですが、どちらも東京からの距離だとか他業種、いろいろなことがその市内でできて、物が完全に市内だけでできてしまうというという魅力が桐生にはあるなと思います。富士吉田市は10年前くらいから「ハタオリマチフェスティバル」という結構繊維産業が一丸となって、ある程度アートディレクションとかがついて統一感があるフェスみたいなのをやっています、それが根付いてきて割と東京からお客さんが行っています。桐生はすごくテクニカルでいい工場ばかりなのに、そういうことをやっていないところが面白いなと思ひまして逆にそっちがいいかなと。それで行き来して人の話を聞いていると、桐生にはやっぱりこだわりのある人が多いし、すごい飛車角が揃っているのにまとまりはしないというところがすごく面白いな、それも気質なのだろうなと思いました。ただこれをまとめるのは無理だとしても、徐々に同じ方向を向いていくとすごい力を発揮するのではないかなと思います。クリエイターやデザイナーが来てもすごく魅力的な産地である気がします。小回りは効くので。そういった意味で、桐生産地がいいなと思って越してきたという感じです。こちらでしたいこととしては、「産地は桐生」としっかり名前を打ち出して、桐生という名前を聞いた時に繊維産地というイメージが湧くような活動をしたいなと思っているのがまず一つ。桐生は十分魅力的だと僕は思っています。大阪育ちで東京に10年いてから桐生と出会って、とんでもない街があったのだなと思って桐生にやってきたわけですから。だから受け取り方というか、その人がどういうフィルターを持っていてどの情報を入れたかによってこの街が良いと思うか、そうではないか、となるのだと思います。桐生の魅力は地元の人が気づいてないだけだと思う。十分すごいと思います。だから僕は繊維産地であることを理由に桐生にやってきたのに、来てみたら、何でこんなに美味しい店がいっぱいあるのだろう、面白い人がいっぱいいるのだろう、なんていろいろなことを知っている人がいるのだろうって日々思っています。東京から来た友達にそれを見せていくと、やっぱ桐生ってすごいでみんな言ってくれます。ということは、編集の仕方と伝え方なのだろうなと思います。それと、桐生の人たちから「昔が良くて今は・・・」というネガティブな意見も聞くのですが、この意識

を本人の中だけで上向きにしていくことはすごく難しいと思うのです。やっぱり外の人が褒めてくれたら嬉しいと思うのですよ。だからまずは、観光などで外から人を呼んできて、桐生を褒めてもらうということはすごく大事だと思います。僕は東京にいた人とそうでない人とは、情報の伝え方のセンスがちょっと違うのだろうなと思っています。なんていうか、水で例えると、内水的に情報を出して地元で潤うっていうのもいいですけど、東京で雨を降らせてきてそれが湿度として桐生にやってくるという方法もあると思います。SNSがまさにそういったもののかなと。広範囲に雨を降らせて「あ、ちょっと降ってきたな。どこから降った雨なのだろう」と気づくと桐生にやってくる、みたいなイメージができたかなと思っています。

「自分たちで何かをしたら、それで何か動いた」という経験が、桐生にいる人たちが桐生を面白いと知るきっかけになると思う。大きいことをドカンとするのではなくて、個々の普通の生活を見せていくこと自体で、人が来てくれるのだと思う。そのことで意識が向上し、生活が潤ってくるだろうと思います。金銭面じゃなくて。なので、うちの店での試みはできれば服が作れるお店のマップを作って、それを東京から朝一で来た人に配布して、まずはお店に来てもらう。朝、地元の生地とパターンを選んでもらって、骨董市など観光で市内を周ってもらっている間に、夕方には服が出来ている。それを持って帰ってもらう。体験ごとを持って帰ってもらう。民泊で一泊してもらって、その間に加工をどこかでやってもいい。刺繍などで、いろいろなお店のワッペンとかを作っておいて、行ったお店のワッペンだけを貼ってあげる。そういう感じで体験と観光がセットになっているようなことができたかなと思います。だから、今の桐生で本当に十分魅力的なので、今から派手な建物を建てたり事業を行ったりしても、何かの真似で、一番にはなれないと思います。日常がすごく魅力的な街だと思っているので、その暮らしを体験してもらって観光。生活に密接した、たまたま知っている人が多い田舎ぐらいな感じで気軽に来てもらえて、顔見知り「あ、ひさびさ～」と言ってそのまま帰っていくみたいな感じの観光がすごく桐生に距離感的にも適しているのかなと思っています。公的なことを私的に活動できたかなと思っていますので、その最後の方で大きいデザインの力を通して統一感を持っていけたかなと。富士吉田市のハタオリマチフェスティバルもちゃんとアートディレクターがついて、ある程度の統一感が持たされているからみんなまとまってやっているのだかなと思います。桐生はすごくイベントが多いけど、乱発しているのです。でも全部すごく面白いのですよ。全部面白いのですけど、同じ日にやる？みたいな感じで。そこをもうちょっとまとめたらと思います。そこで比べあっても、市外の人には全く知らないのです。僕は自分が桐生をすごく好きでファンになっちゃっているけど、「桐生に移住するのだけけど」と言っても「桐生ってどこ？」と言われるので、そこはもったいないかなと思います。桐生はすごく面白いと思っていますので。発信すること自体も楽しいよ、というところを伝えられる活動ができたかなと考えています。

(意見)

さっきからお話を聞いていると、どうしても広報の部分とか、ネット上の情報をどこでキャッチしたらいいのかわからないという話が結構ありました。自分も新里出身で高校も桐生の高校に通ってそのあと大学で離れて戻って来た時に、そんなに気楽には行けない場所に住んでいたのです。どうしてもネット上から情報を仕入れるしかないという状況でした。た

だそうになった時に、例えば空き家バンクでどういう物件があるのだとか調べようと思った時に
すぐ調べづらいのですよね。どうしても情報が見つからない。僕は妻も桐生出身で桐生に行こう
と決めていたので、多少見づらかったり情報を集めづらかったりしても、知り合いもいたとい
うこともあったのでなんとか情報は集められたのですが。地元出身でない人が「気になるな」
となって情報を集めたいとなった時に入口が見つからないというのが正直な印象です。そこ
で「じゃあ他の地域もうちょっと調べてみよう」となったときに、そっちの方が見やすかった
ら住みやすそうだと（実際に住みやすいかは別として）思ってしまう部分があると思うのです。
もう少し見やすいように変えていけたらいいのかなと思います。

あと、さっきもおっしゃっていた「イベントがいっぱいある」というお話ですが、どこで何
をしているのかわからないのですよね。今、桐生にいても、イベント情報を知ったのが開催の
一週間前ですでに予定が埋まってしまっているということもあります。桐生市として情報を保
有して、ここを見ればイベント情報がちゃんと載っている、という場所がほしいというのは、
引っ越してくる前もこっちに来てからも思う部分ではあります。情報の見やすさというのは住
んでいる側からしても外から見ても、課題であると思います。

あとは、外から見ると自分勝手に言えるのですが、市役所の職員でも困っているなど
いう部分はあると思います。こういった会は、僕らが困っていることとかこうしてほしいこと
を、半ば一方的に話す会になりがちではあると思うので、逆に市の中で困っている話を聞きた
いです。僕ら民間でそれぞれ仕事をやっているという部分もありますので。

（市長）

貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。まずは「ゆりかごの街
きりゅう」の件なのですが、実は群馬県が行っている国勢調査で5歳刻みの人口移動推計
数値が出ていますが、15歳から19歳までの若者が就職や進学で1回群馬県を離れる人数は、
男性が6,000人、女性は6,000人。その5年後に、つまり20歳から24歳までの人が群馬県
にどれくらい戻ってくるかという男性は6,000人中3,000人、女性は6,000人中200人しか
戻って来ない。これが一番大きな問題なのです。これを解決するためには、様々な結婚・妊娠・
出産・子育て・教育などの切れ目のない・・・などいろいろな話を言っているのですが、や
はり桐生独自でインパクトのある若い子育てをする世代の人たちが魅力を感じるような施策を
作るためには、この「ゆりかごの街きりゅう」というのは良いキャッチコピーになるかなと
思っていますので、是非そういう部分ではこれからも進めて行ってもらえればと思います。

それから繊維産業についてですが、僕も繊維関係の仕事をしていたので八王子にはよく仕事
に行った関係でよく知っています。空き家のリノベーションなどのいろいろな部分で優先順位
をもっとつけていただいた方が良いということなのですが、確かにいろいろとやってはいま
す。桐生も今、空き家を使って起業してくれている人たちが、ここ何年間で51件、中心市街
地を中心に増えてきているものですから、そういう人たちがこれからも手厚くするためには、
しっかりと意見要望を聞くのと同時に、確かに金銭面の部分での補助というのにも同時に叶え
ていかなくてはならないのかなと思っています。桐生のイメージとすると「小さくてもキラリと
光るビジネスチャンスのあるまち」と、こんな形で是非皆様の起業を応援していければいいか
なと思っていますのでございます。

地域おこし協力隊の人がおっしゃっていた、桐生市のリアルな情報が少ないというお話、あとは楽しみながら協力隊員として移住生活をしていきたいというお話があったかと思いますが、よくお祭りで比較されるのが、自分たちが楽しんでいる姿を見てもらう祭りと、外から来ていただく人に楽しんで祭りと2つあるのだけれど、やっぱり地域の本当の良さを感じてもらうためには、そこで働いている、例えば地域おこし協力隊の人たちが笑顔で楽しそうにやっている姿を見ると必ず来てくれた人はそのまちに対してイメージが良いと思うのです。その部分では是非やりがいを持ってやってもらいたいと思いますし、黒保根というまちは本当に良いところで、可能性もたくさんあるところなので、是非一緒にやっていただければというふうに思います。

桐生市の教育についてのお話では、いろいろとご指摘をいただきまして大変ありがとうございました。桐生でも実は群馬大学理工学部の学生さんが中学校の2年生に理科の授業を教える「サイエンスドクター」事業とか、あとは親子で体験型の学習をする「未来創生塾」とか。あとは桐生高校などでも「スーパーサイエンスハイスクール」など、様々な特色のある教育を進めてきたところはあるとは思いますが、具体的な話の部分でもいろいろと問題点があるということですので、しっかりその部分をもう一度教育委員会と検討しながら進めていきたいなというふうには思っています。自分の公約の中で提案したのが、「ミニミュンヘン」と言って夏休みの一週間から10日くらいの間に子どもたちだけの仮想都市を作ってあげる。これをできれば2年くらいのうちに皆様の協力をいただきながら、子どもの仮想都市の実現に向けて動いてみたいと思っています。仮想都市の中でお金を貰うには一定の仕事量と知識が必要で、ここは桐生だから例えばそのお金は「キリン」という名前にすると、時給は全部5キリンで、1キリンは税金として支払う。お金が貯まれば家も建てられるし、美味しいものも食べられる、タクシーにも乗れる。悪いことをすれば警察に捕まるし、罰金も払わなくてはならない。このような仮想都市を作ることによって、特色ある教育の一つになると思いますので、是非進めて行ければ良いと思っておりますので、また引き続きご指導いただければと思います。

次のお話も素晴らしいですね。特に今日聞いた発言の中で素晴らしいなあと思ったのは、「インターネットではない情報の発信を」という話で、これは全くそのとおりで。インターネットは、それはそれで大事なところはもちろんあるし、大切なだけれど。要はさっきもいろいろな人からもお話があったけれど、桐生市は同時多発的にいろいろなイベントがあるが、それが一つにまとまっていくためには、やはりその人たち同士のコミュニケーション、人と人との話し合いの中で、自分たちでは「ゆるやかなネットワーク」と言っているけれど、そういった形で仲良くなったり話をしたりすることによって、他の人たちのイベントに自分たちが協力することによって自分たちのイベントもさらに良くなっていくと。お互い協力しあっていけば、二つある、三つあるイベントが一つの大きな柱になってボンと出るようになる。最終的には同じ目的を持てば、もっと大きな柱の中で桐生のイベントとして発信できる。このような形になるのがまさにインターネットではない情報発信の仕方だと思いますので、引き続き教えてもらえればありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

次のウェディングのお仕事をされながら感じたお話について、役所の人たちのあり方ということなのですが、まさにそのとおりで、これからどんどん役所の人たちも人数削減していく

ような行政改革が進められてくると、今までみたいに何でも役所の人たちに物事を頼むという、こういう時代ではなくなってくるのですね。やはり役所の職員の人たちがコーディネーター役、自分はこういうふうになればと思うけれど皆さんどうですか、というような形にシフト変換してくると思いますので、そういう中で市民の人たちにも協力をしてもらうような形が出てくると思うのですが、それがまさに公民連携になると思いますので、引き続き役所の職員にはお話をしていけたらいいかなと思います。

また、健康に関する無料講演会を開催していただいた時に感じられた「新しいものを始めるときの風当たりの強さ」という部分については、実は僕も感じているところがありまして。桐生以外の人たち、外からここに来て起業してくれる人たちには全然そんな意識はないので、逆に既存の商店街の人たちと一緒にまとめてくれるような、まさにHONCHO1-2フェスなどは新しい人たちの力をどんどんまとめてきてくれる。ベースオンザグリーンがあったり本町六丁目の歩道を使ったイベントがあったりとか。ああいうふうな形で多くの人たちが関わってくるようなイベントのやり方が桐生の姿だと。さっきお話があったとおり行政主導の大きいイベントをボンと立ち上げるのではなくて、市民が主体のいろいろなイベントをあちらこちらでやっているというのが桐生の求められる姿だと思いますので、できればそんな形でこれからも進めて行ければいいかなというふうに思います。

それから、富士吉田市の「ハタオリマチフェスティバル」のお話がありましたけど、確かに今の桐生の中では素材から製品までが一貫してできているのがこの産地の特徴であると思うのですね。もう少しがんばると、桐生が繊維の中でも全国トップとなるような、それくらいの土壌は桐生の中にあるかなと思っています。それには、昔からある桐生のものだけを進めるのではなくて、若い人たちの新たな発想みたいなものをどんどん提案して行ってほしいと思います。今お話しされたようなことをしていただければありがたいと思いますので、一緒になってやっていきたいかなと思っていますのでございます。

市役所の中で困っていることを聞かせてほしい、というのはもう職員にとっても本当にありがたい話です。なかなか言いたいことがあっても言えないような状況が職員の中ではやっぱりありますよね。かわいそうだよ。そういう部分でも逆バージョンの職員の人たちがこういうところにおいて、市民の人たちが聞くような。そんなことをやったら。全国どこにもないと思いますので。ものすごく良い発想だと思いますので、是非また検討をできればいいかなと私は思います。本当に貴重なご意見ありがとうございました。

私にとりましても非常に勉強になりましたし、聞いている職員にとりましてもかなり大きな刺激があったと思います。また定期的にこういうような話をさせていただきたいと思いますし、それが無理でしたら、役所のなかでは起業の部分に関してはすべて産業政策課が窓口になります。そこから発展型とか相談型とか広げたところのいろいろとアドバイスしてってもらえるように、お話をしてくれると思いますので、まずは桐生市役所の産業政策課のところにご相談をいただければすべてが動くように、ワンストップの中で動ける、そんな形でやってくれると思いますので、相談していただければと思います。どんな小さい事でも肚の中に溜めておくと嫌なことがどんどん溜まっていってしまいますので、思ったことはどんどん言った方がいいと思いますので是非相談していただければありがたいかなと思います。

今日は本当に貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

閉会